

第4回石巻市総合計画審議会 会議録

■日 時 令和2年8月27日(木) 午後6時20分～午後7時40分

■会 場 石巻市役所防災センター 多目的ホール

■出席者 別紙のとおり

■会議内容

1 開会

委員数20名に対して13名が出席しており会議は成立

2 開会あいさつ 岩田会長

3 議事

(第3回石巻市総合計画審議会に係る報告事項)

- ・前回の欠席者へ意見聴取を行ったが、特に御意見はなかった。
- ・前回いただいた御質問への回答については文書で回答しているが、一部回答が漏れていた。御質問があった復興公営住宅入居者の平均年齢は、令和2年3月31日現在で約55歳となっている。

(1) 審議事項 第2次石巻市総合計画基本構想(原案)について

(説明:復興政策課) 資料1及び資料2

質疑応答

会長: 地域性が全く見えないということに関しては、細部に至ってチェックをしていただいた。一般的な目標設定とは違って、地域性に基づいてかなり丁寧な書き方で石巻市の現状を読み込んだうえで、基本目標につながるようにしていただいた。かなり改善が図られたと思うが、皆さんから御意見を伺いたい。

委員: 1点目は、23頁の空き家の関係で、「良好な景観生活環境の保全を図るため、所有者などの責任において適切に管理することが必要となっています。」とあるが、このほかに空き家の問題として一番大きいのは所有者不在と所有者不明があると思う。所有者の責任において、適切に管理するとともに、所有者不在・所有者不明の場合についても、一步踏み込んだ対策を講ずるといふのが必要ではないかと思う。

2点目は、53頁の「ごみの減量化と資源循環化の推進」に関して、これはとても大切なことだと思う。石巻市においてはごみの分別が進んでいない。ごみの分別化・減量化について、分別について積極的に取り組む必要があると思う。他市町村は分別が進んでいる。分別化があつて、減量化になって、再生資源になると思う。

事務局: 空き家対策、ごみの減量化は重要な課題であり、対策を進めている。今後は基本構想にぶら下がる形で様々な事業を展開していくため、その際の御意見として参考にする。

会長: 空き家問題はかなり深刻である。ごみの問題については、まずはごみを減量していくことが大事である。石巻市は分別が進んでいないのか。

- 委員： 石巻市は進んでいないと感じる。仙台市は分別がかなり厳しい。石巻市は燃えないゴミに何でも出せる。もう少し考えたほうが良いのではないかな。
- 委員： 表題の件で確認したい。「第1章」の後、「(1)」、「①」となっているが、何か意図はあるか。他の計画だと「第1章」、「1」、「(1)」となっているものが多いようだが、数字のみの表題がないのはなぜか。
また、他の計画だとアルファベットは半角になっており、こちらは半角ではないようだが、半角の方が読みやすく感じる。
- 事務局： 御指摘のとおり、公文書には決まりごとがあり、レイアウト等を含め、確認して分かりやすくしたい。石巻市の公文書は原則全角表記となっておりますが、括弧書きは半角というルールがあるので、最終的に整理した上で表記する。
- 委員： 9頁の石巻市の沿革について、27行目以降の「その一方で、北上川流域は度重なる」から始まる段落の最後が、「流域全体を視野に入れた治水対策に着手し、昭和54年（1979年）北上大堰が完成しました。」となっている。確かに、国土総合開発法により治水対策で北上大堰を事業の一つとして作ったが、治水の機能がない施設であるので、”治水対策”とある部分の”治水”を削除して、「昭和54年（1979年）治水安全路の向上が図られました。」と文章をまとめたほうが良いのではないかな。
- 事務局： 正しい表記に修正する。
- 委員： 13頁にカタカナの用語がたくさん出ている。一般化されているものもあるが、市民が目を通すものなので、市民の方にも分かりやすいものにするために、一般化されていない用語については、簡単な解説を入れる等で、より分かりやすくなると思う。
- 事務局： 御指摘のとおり、欄外に解説を入れる等、分かりやすく修正する。
- 会長： その頁ごとに説明を入れるのも良いが、大事な言葉や分かりにくい言葉を用語集のような形で最後にまとめてはどうか。
- 事務局： 分かりやすい形にまとめたい。
- 副会長： 9頁の3行目「場所は」とあるが、一般的には「位置は」ではないかな。
21行目「鉄道網の整備が進み、昭和42年（1967年）の石巻工業港の完成により工業都市として大きく発展を遂げました。」とあるが、この間に「昭和39年（1964年）新産業都市の指定を受け」と追加した方が良いのではないかな。このことは28頁でも触れているので、合わせた方が良い。沿革の中でも大事な部分である。
36頁（2）の3行目「震災の影響によりコミュニティを形成する住民構成が大きく変動し」となっており、ここだけ見ると震災の影響でコミュニティが崩壊したととられかねない。5行目以降を「関係の構築とともに、進行する少子高齢化社会に対応するため、引き続き地域活動の活性化を目指していく必要があります。」とした方が分かりやすいと感じる。
37頁（6）についても同様に、「東日本大震災の影響により、半島沿岸部の少子高齢化が加速しており、復興公営住宅で暮らす単身高齢者などが増加しています。」となっている。このことは半島沿岸部に限らない。半島部のことだけでなく「さらに今後は市内全域でも少子高齢化が進み」とした方が全体的につかめるのではないかな。
また、地域包括ケアシステムの推進は半島沿岸部だけのものではなく、市民全体を対象としたものであるため、文章を検討した方が良い。
- 事務局： 1点目について、「場所は」の後に「宮城県の北東部に位置し」と続けたことから、文頭を「場所は」とした。
それ以外の部分は、御指摘のとおり分かりやすい表現に修正する。

- 委員： 44頁以降のフレームは想定か、それとも目標か確認したい。
- 事務局： 計画の指標となる部分ということで、目標として設定している。
- 会長： 「～とします」という表記にしているということは何らかの意思が働いているととれるので、自分もどうしてこうなっているのか確認した。石巻市としては、人口をなるべく減らさないように努力をしたいという中で、宮城県の方針で自然減を食い止めようということだろう。
- 委員： 宮城県内の全市町村の数値が出ており毎年変わっているが、その数字ではないのかと思った。あれは想定としているが、その数値を目標としたのではないか。
- 事務局： 御指摘の件は、国立社会保障・人口問題研究所で設定している想定値のことを指していると思う。この想定値を参考にしているが、そのままの数値ではなく、石巻市の状況を含めた数値としている。
- 会長： 何を目標にして何をしたら良いのか、次の計画にも影響してくる部分なので、余白の部分に説明を加えたほうが良いと思う。
- 委員： 検討していただきたい部分が3点ある。
- 1点目に、12頁(2)国内景気の穏やかな回復について、コロナ禍が起きてから月日経っているので、この部分で触れなくて良いか。
- 2点目に、19頁④地域コミュニティについて、「「関係人口」が地域を支える新しい力として芽生えはじめていることから、これらを活かし、地域コミュニティを維持していくことが重要となっています。」とまとめてあり、これも大事だが、地域住民の主体的な取組も合わせて書いていかないと、他に依存したものだけになってしまうのではないかと懸念を感じた。
- 3点目に、31頁(6)教育文化の中で教育委員会が進めているコミュニティスクールに触れる必要はないか。これは教育委員会と相談の上、検討してほしい。
- 事務局： 御指摘いただいた3点について検討する。
- 委員： 49頁(6)土地利用の方針の方針5で、あえて「総合支所において」とあるが、例えば稲井地区や半島部でも、総合支所と同じような環境にあると考えると、中心地以外を一体的に捉えた生活基盤整備と持って行った方が良いのではないか。「総合支所において」の部分は省いた方が良いのではないか、検討してほしい。
- 事務局： 改めて検討する。
- 委員： 人口フレームについて、36頁のまちづくりの主要課題の(1)では「人口の維持・増加」と書いてあり、それに対してフレームは人口減少している。「人口の維持・増加」という表現が適切なのか。
- 事務局： まちづくりの主要課題の部分では、減少傾向にあるという現状と、それを回避していかなければならないということを含めて表記した。
- 会長： 人口減少社会が当然になっている中で、施策に対して言葉をどう選んでいくかはとても大事である。全体を改めて齟齬がないか、確認いただきたい。
- 事務局： 維持・増加という表現を減少抑制等、別の表現を検討したい。
- 委員： 48頁⑦観光について、将来の土地利用と現状と課題を書いている部分である。「東日本大震災以降、「Reborn-Art Festival」のような」とあるが、「ツール・ド・東北」等、市全体を巻き込んだ観光イベントをこれまでやってきた中で、10年間の基本構想の中に「Reborn-Art Festival」と1つのイベント名が具体的に出てくることに違和感がある。将来の観光について考えたときに、年に1回や数年に1回のような一過性のイベントをここで強調するよりは、低平地利用、震災前に住宅があって現在荒れ地になってしまっている土地をどうす

るかが半島沿岸部では問題になっているので、きれいに整備して、地域の人たちが観光資源の一つとして捉えられるまちづくりをしていくか、方向性をこの中に盛り込んだ方が10年後の人々にとっての観光について示せるのではないかと思う。1～3行目は必要あるか。

- 事務局： 一例として挙げたが、他のイベントも考慮して表現を検討する。
- 会長： 今の部分は大事な指摘であるので、対応をお願いしたい。
- 委員： SDGsの民間企業や金融機関等、多様なステークホルダーとの連携とあるが、石巻市ではどのくらいの民間企業がSDGsに取り組んでいるのか。企業の数をおさえているのか。
- 事務局： グランドホテルで取り組んでいる。現在、正確な数まで把握しきれていない。石巻信用金庫で今後取り組むという報道があった。石巻市としても、モデル事業や未来都市の選定を受けたので、今後広めていきたいと考えている。
- 委員： 変更事項にある21頁⑥多文化共生について、新たに項目を1つ加えている。石巻市で外国人が非常に増えており、今後石巻市を引っ張っていく1つの部分かと思うが、基本目標にしか入っていない。絆、支え合い等、全部関係している。基本目標の中に、多文化共生という言葉を入れられないだろうか。担当部署の希望もあるだろうが、入れてほしいという要望である。他市町村との違い、SDGsの面でも極めて大事な部分かと思う。
- 事務局： 基本計画の方で表現したいと考えている。
- 委員： 市報で「おたがいさま」で支え合う持続可能なまちづくり」と掲載されていたが、基本目標にない。市報なので分かりやすく書いてあるのかと思った。「おたがいさま」と書いてあると市民としても分かりやすい。これはどこからきているのか。
- 事務局： 「おたがいさま」で支え合う持続可能なまちづくり」はSDGsの未来都市の計画で使用している。総合計画では6頁の「⑥SDGsとの関係」の中で触れている。
- 委員： 市報のように分かりやすい言葉が出てくると、市民は取り組みやすい。横文字や難しい言葉は、一般市民の中には分からない人が多く、離れて行ってしまわないか。もっと分かりやすく市民に伝えられる方法があったら良いと思ったときに、「おたがいさま」という言葉が目に入ってきたので、「おたがいさま」という言葉をもっと出した方が良いと思った。先程出ていたごみ問題について、自分はずっと仙台市に住んでいたもので、石巻市の分別は緩いと感じた。指定のごみ袋以外でも持っていってくれる。分別ももっと細かくした方が良いと思う。
- 会長： 言葉の問題について、言葉になるとひとり歩きしてしまう。法律でも何でも難しいと指摘されるが、言葉に基づいて裁判所が判断するので、かなり気をつけて、かつ分かりやすい言葉で、ということを基本に、難しい部分であるが、もう一度全体を読み合わせした方が良い。
ごみの問題については、人口密度が高い地域や高齢化している地域等では、お金をかけても行政が対応しなければいけなくなってきている。基本的な施策として、ごみの減量化とともに分別化についても重要な施策になっていくと思う。それぞれの担当部署での計画になっていくだろうが、ぜひ担当部署に伝えていただきたい。
- 委員： 前回も話したが、40頁に新型コロナウイルス感染症に触れており、新型コロナウイルスに限らず新しい生活様式というのが、想定外だが、キーワードになる。課題として挙げられている以上、基本目標の中に新しい生活様式を入れ込むか、入る余地を考えておかなければならないのではないかと。

前回、新型コロナウイルスは日本の伝統的な文化を全部否定しているという意見があった。ベクトルの反対なものを実現しなければならないと指摘されており、非常に重要な意見だと思った。新型コロナウイルスというより、新しい生活様式についてどのように検討しているのか。

- 事務局： 59頁の基本目標の連携にあるように、全国的課題である「感染症対応」として位置付け、60・61頁のとおり基本目標を横断した取組と考えている。基本計画に移行した際に取組を具体化していこうと考えている。
- 会長： 新しい生活様式に対して具体的に何かないか。横断的に、というのが言葉で説明されれば分かるのだが、具体的にはないか。
- 事務局： いただいた御意見を基に基本計画の中でどういった取組ができるか検討していきたい。例えば、GIGAスクール構想等、まさに新しい生活様式としての取組である。その他、基本的な感染症対策についても取り組んでおり、それらを含めて基本計画の中で考えていきたい。
- 会長： 何度か事務局とWEB会議を行ったが、それが当たり前になった世界の先に何が見えるか。通わなくて良くなると空いた時間で石巻市のために何をするか、あるいは仙台市に住まなくて良いとなった時に石巻市の魅力は何か、というところにつながってくる。
- 委員： 6頁に包摂性とあり、こういう言葉を使わないと説明できないのかもしれないが、一般的にわかりやすいように巻末等で説明してほしい。他にステークホルダー、グリーンスローモビリティ等、できるだけ分かりやすい表現で解説を加えたら良いと思う。
- 事務局： 44頁の図表関係について、凡例が小さくて分かりにくいので、大きくすると良い。作って終わりではなく、どう活用するかが大事なので、できるだけ分かりやすくするのが大事である。
- 事務局： 御指摘いただいた部分に配慮する。なお、主に内容を重視して審議していただいているが、実際には写真や挿絵等を入れ込んだ形で冊子化する。
- 委員： 基本構想には掲載されていないが、石巻市に一番大事なのはまちを活性化して盛り上げることである。大手企業の誘致計画はあるのか。自分が知り得る限りでは、石巻河南インターチェンジ付近に新しいある工場ができた。素晴らしいことだと思う。雇用の促進が図れるし、かなりの活性化になる。企業誘致は進んでいるのか。
- 事務局： 企業誘致については、具体的にどの企業を誘致しているか、詳細を把握していないが、御指摘いただいたとおり、企業が進出して雇用促進が図れるので、とても重要だと考えている。新型コロナウイルスの影響もあるが、産業部で取り組んでおり、石巻市として積極的に取り組んでいきたい部分であるので、御意見を担当部署にも伝える。
- 委員： コミュニティの強さが人間の力だと思う。コロナ禍で、人のつながりが寸断されている。少しずつ活動を再開しているが、人間本来の力になるコミュニティが作れなくなっている。それを乗り越えないといけない。そういう面では、新しい文化施設もできる、まちの中では小さい規模でイベント開催の動きもある。ぜひ行政にバックアップをしていただいて、新しい日常を取り戻したい。今までも何千年、何百年と同じようなことがあったが、乗り越えて人類がここにいる。もう一度力を合わせて乗り越えていきたいし、ぜひバックアップをお願いしたい。

4 その他

今後の予定について、基本構想の中間案として議会へ報告する流れとなっている。基本計画については、中間案を年末に報告する予定である。最終的には議決を要する方向で調整を進めることになるかと思われる。

審議会の予定としては、11月に基本計画の素案を審議していただき、併せて本日いただいた御意見を取りまとめた結果を報告する。さらに、1月及び3月の開催を予定している。

5 閉会あいさつ 大槻副会長

6 閉会

石巻市総合計画審議会委員名簿

No.	氏 名	所 属	備 考
1	岩田 司	東北大学災害科学国際研究所 教授	会長 出席
2	大槻 英夫	社会福祉法人石巻市社会福祉協議会 会長	副会長 出席
3	関根 慎吾	石巻専修大学経営学部 教授	出席
4	鈴木 康夫	東北福祉大学総合マネジメント学部 学部長・教授	出席
5	佐藤 伸吾	国土交通省東北地方整備局北上川下流河 川事務所 所長	出席
6	佐藤 靖	宮城県東部地方振興事務所 所長	欠席
7	青木 八州	石巻商工会議所 会頭	欠席
8	須能 邦雄	石巻市水産振興協議会 会長	欠席
9	松川 孝行	いしのまき農業協同組合 代表理事組 合 長	欠席
10	阿部 隆	特定非営利活動法人石巻市スポーツ協会 会長	出席
11	西條 允敏	石巻市文化協会 会長	出席
12	立花 善孝	一般社団法人石巻青年会議所 理事長	欠席
13	千葉 陽子	石巻市女性活躍推進会議 副会長	出席
14	木村 民男	石巻市子ども子育て会議 会長	出席
15	佐々木 清勝	河北地域まちづくり委員会 会長	出席
16	大槻 敏也	雄勝地域まちづくり委員会 副会長	欠席
17	今野 まゆみ	河南地域まちづくり委員会 委員	出席
18	伊藤 桂子	桃生地域まちづくり委員会 副会長	出席
19	佐藤 尚美	北上地域まちづくり委員会 委員	出席
20	後藤 ゆか	牡鹿地域まちづくり委員会 副会長	欠席

(令和2年8月27日現在) (敬称略)